Kamagaya International Friendship Association

K·I·F·A Plaza

第38号

2000年（平成12年）３月13日
発行：鎌ケ谷市国際交流協会
〒273-0195　鎌ケ谷市初富928-744
TEL　047-445-1141（内550）
FAX　047-441-9400
http: // www.kifa.gr.jp

行ってきました
ニュージーランド そして ワカタネ

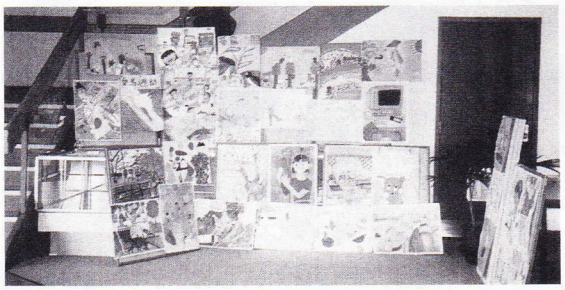
２月５日～13日、姉妹都市調印後初の市民によるニュージーランド（ＮＺ）南北島旅行が実現した。ワカタネ友好訪問も組み込まれていたことから参加者30名と、予想以上の反響があり姉妹都市への関心の深さがうかがえた。

季節は日本とは逆の夏の真っ盛り。ワカタネ滞在の２日間は、交流と呼ぶにはあまりにも短い時間ではあったが、ワカタネを訪れることが交流の第一歩であることを、ワカタネ地区あげての歓迎から参加者みんなが感じた旅行であった。

アプヌイ小学校にて

「ジャパニーズヌードルデス」と
キッチンに
立ちて日本のそばを
振舞ふ
―関こう―

ワカタネ到着の翌朝、市庁舎に展示された鎌ケ谷市内小学生の絵



北島は緑の大地、ＮＺのシンボル、シルバーファンと呼ばれる大きなシダも木々の間に多く見られる。南島の防風林は一定方向に曲がり風の強さを示していたが、北ではポプラもスクッと伸び葉をキラキラさせて牧場に立ち並んでいた。そろそろ急がねばワカタネの皆さんが待っている。

ワカタネ川の橋にさしかかると中学生ぐらいの子供達が泳ぎを楽しんでいた。配色良くきれいに植えられた花壇をターンするとカラフルで明るいメインストリート。５時半過ぎに出迎えの人々が待つ市役所前に到着。手を握り肩を抱き合い初回、再会を喜びあう輪がいくつもできた。歓迎レセプションの後、ステイ先のハモンドさん達と釣り船が停るリバーサイドのシーフードレストランで夕食をとった。ＮＺの夏は暗くなるのが午後９時近く。店はアフターファイブを楽しむ人々で賑わっていた。今夜の宿は街から車で30分程の農場主邸、車を降りて見上げると空の端から端まで天の川が流れ満天降るような星、なんと素晴らしいことか。

朝、窓のカーテンを開けると大平原に大きなチョコレートプディングを置いたようなエジカム山（805m）が見える。カーラ夫人は、ワカタネのＭｔ.富士と言っていた。食卓には、庭で摘んだバラの花、もぎたてオレンジのフレッシュジュース。今日は市内見学。市役所を皮切りにアプヌイ小学校を訪問、子供達が澄んだ目で私達に微笑みかけてくれる。みんなとてもかわいい。校長先生のギターにあわせて歌をうたってくれた。生徒が描いた絵や作品が一杯の教室では先生が絵本を読むのを床に車座になって聞いたり、休み時間は芝生の庭で裸足で遊んでいる。プールでは元気な声が飛びかっていた。そして先祖が渡ってきた青いワカタネビーチ、おいしい牛乳、梨園では初めて梨を皮ごと食べた。小さいが甘くて果汁もたっぷり。

大きな美しい自然、人々の生きる力と暖かい心がワカタネの何より得難い財産だと思う。地平線まで続く緑の牧場を見ながら、どう生きることが良いのかをふと考えてしまった。

（酒井　紀子）

KIFA PARTY

11月28日(日)
参加348名
外国人17ヶ国114名

ステージ

〔参加者感想ベスト3〕
なごやか
Interesting
楽しい

＊なごやか
テーブルコーディネーターの気配り
参加者自身もパーティーの盛り上げ役に
踊りまで楽しめたＢＧＭサービス

＊ Interesting
多数の国の人の参加と自分がその中にいること
ステージパフォーマンス
部屋のデコレーション

＊楽しい
いろいろな国の人と交流ができた
友達がたくさんできた
通訳のできる人が積極的に話をする
ようにさせてくれた
日本語の勉強になった

進行役

第12回KIFAパーティーは盛況だった。会場のそこここで見知らぬ人同志が歓談し談笑し合う姿が見られた。参加者全員で歌った「It's a small world」の歌そのものを表していた。地元に根付いてきた国際交流から次に踏み出す交流活動は2000年の大きな課題となりそうだ。

鎌ケ谷ニューボーイズ

〔日本語講座ブース〕
講座紹介の他専門家による絵手紙作り実演指導
講師、訪問者それぞれ良い経験をした

〔各国ブースからの感想〕
とてもenjoyした
たくさんの人の訪問があり自分の
国に関心を持ってもらい満足した
準備時間が短くて大変だったが皆
温かく受け入れられて良かった

〔出店ブース〕
ガーナ
バングラディシュ
ペルー
フィリピン
韓国
ニュージーランド
アメリカ

興味深かった外国語で話す会

1999. 10. 17. 英語・中国語・スペイン語・ドイツ語・韓国語を母国語とするパネリストが参加する外国語で話す会が行われ、興味深いお国ぶりが披露された。全参加者の国数は、12カ国。

スペインやペルーでは時間厳守という言葉は通用せず、30分や1時間遅れは普通の事。対してドイツでは時間通りしかないという。韓国の食事のマナー等は日本と逆の事が多いという話、中国の家族愛の話などそれぞれの母国語で語られた。通訳はボランティア通訳や飛び入りの通訳が行い、パネリストは伸び伸びと話していたが、中には母国語を忘れ日本語で思い出している外国人がいるなど微笑ましい一幕もあった。

パネリストのスピーチの後ペルーの民族楽器ケーナとサンポーニャの演奏サービスがあり、つづいてティーパーティーを行った。いくつかの輪ができパネリストを囲んで外国語だけでなく日本語も交えて話が弾んでいた。

参加者の声　岡本泰子さん

面白くて楽しい会でした。パネリストのお話を聞いて、国による日常的な文化の違いを知らな過ぎたことを痛感しました。後の懇談会では、英語・スペイン語・中国語等のグループができましたが、私は、英語でのトーキングに加わりました。more slowly を連発しながら必死に耳を傾け、たどたどしいながら必死に語りかけました。またこのような催しを設けていただきたいと思います。

鎌ケ谷に転居されて2年。専業主婦の岡本泰子さんは、KIFA 英語講座を受講され楽しく過ごされているそうです。

楽しませてくれたパネリスト

心強い通訳ボランティア

箱根校外学習会 ―日本語講座―

大涌谷

参加受講生

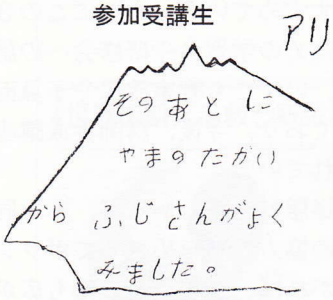
11月14日(日)昨年に引き続き費用は参加者負担で校外学習会を行いました。1999年は11月に入っても10月並の暖かさで紅葉が遅れていましたが、当日はやっと紅葉が始まったところでした。

マイクロバスに外国人11名日本人ボランティア12名の総勢23名で箱根・芦ノ湖・大涌谷へ。

行楽シーズンで道路渋滞や芦ノ湖遊覧船での満載状態、ロープウェイの乗車1時間待ち等に見舞われましたが、バスの中での日本語学習会の盛り上がりや、そこここでの参加者交流は良く図れていました。

好天にもかかわらずやや霞んでいたのですが、きれいな富士山も望むことができました。

芦ノ湖遊覧



11月14日(日)KIFA の日本語の教室から先生達と生徒達は、皆で23人、朝6時に鎌ケ谷の市役所からバスで富士山を見に行きました。

行くときはいろいろな国の人と先生達と挨拶しました。それからゲームしたり、歌ったりして箱根の町に入りました。皆でおいしい御飯を食べました。その後に船に乗ってロープウェイに乗って山の高い所に上りました。その山から富士山が良く見えました。私は初めて富士山を見ました。とても綺麗な山でした。その時自分の国の DAMAVAND (5671m) という山を思い出しました。登った山に温泉がたくさん有りました。その温泉で茹でた黒いゆで卵を皆で買って食べました。帰る時もバスの中でゲームしたり歌ったりとても楽しかったです。

西暦2000年を迎えた今日、改めて国際交流そのものについて考えてみるのもいいのではなかろうか。この特集では、千葉県や鎌ケ谷市および近隣市町ではどのような新しい活動を展開しているのか、アラカルト風に掲げてみた。

手賀ワールド —東葛地区合同国際交流会—

2月12日（土）

「手賀ワールド」が県立手賀の丘少年自然の家で開催された。県教育委員会主催、東葛地区６市１町（我孫子・鎌ケ谷・柏・流山・野田・松戸・沼南）の国際交流協会協賛による初の催事で、天候にも恵まれ、予想を上まわる260余名の世界の友達が集まり、千葉テレビの取材もあり、大盛況裏に終始した。

第１部トークショーは各協会選出の７ヶ国９人の外国人がパネラーとして、日本人と外国人の生活や習慣の違いを論じた。村松コーディネーターの手腕も功を奏し、会場からの反論や賛同発言も飛び交い一気に熱を帯びた。外国人からは、最近多発する青少年事件から「家庭で為すべき躾を学校に任せ過ぎている」との批判があったが、ＡＬＴ（外国語指導助手）のアメリカ人は「副担任制等日本の学校システムには見習う点も多々ある」と発言した。「日本人は外国人に対して常に外国人というギャップを意識する様に感じられる。言葉の壁を殊の外意識せずに、日本だから日本語で話しかけて欲しい。お互い人間同士の付き合いが気を使わずにできれば楽しい」とのパネラー達の意見だった。また、災害発生時の避難場所や、緊急時の対処の仕方等は諸々の外国人に充分情報が届く様な地域の支援が望まれる。その為にも日常の近所付き合いが大事とのまとめで、予定時間も超過となった。

第２部の交流会は、会場両側の卓上一杯に料理が準備され、乾杯の後、各協会の演じ物が披露された。柏の青年部の司会で、地元の沼南町の子供たちによる「手賀ばやし」に始まり、我孫子の情熱的なメキシカンダンス、ＫＩＦＡ自慢の鎌ケ谷ニューボーイズのバンド演奏と、It's a small world の斉唱、柏のマカレナダンス、野田の情熱的なブラジルサンバ、最後にバンド伴奏で「今日の日はさようなら」の斉唱で幕を閉じた。

願わくば、参加者全員がそれぞれに国際交流を楽しんだこの日を契機として、県と東葛地区の交流と団結が進展する事を！

（実行委員　荻）

～日本語ボランティア近隣ネットワーク～

KIFA の声がけでスタートした、日本語ボランティア講師近隣市町（東葛地区）ネットワークは今年で３年目を迎える。柏、松戸、野田、沼南、流山、それに鎌ケ谷の国際交流協会を母体とする日本語教室でボランティア講師をしている人達が、より多くの情報および学習の場を共有できるよう協力体制をすすめている。すでにこの３年の間、お互いに、講師のための学習会や研修会への誘い合いは定例化しているが、いずこも教室確保や予算面で、同じような悩みを抱えており、今後、講師養成講座の共同開催など課題も残されている。

地域による協会の規模、様態の格差もあるが、志を同じくする者同志、今後一層の協力体制をめざしてボランティア日本語講師の輪が広がれば、国際交流の輪も広がると確信している。

かしわウィーク'99

昨年10月24日（日）「柏市日本語スピーチ大会」に日本語講座からも参加した。近隣都市（松戸・野田・流山・沼南町）の外国人達に混じっての参加だった。

イランのアボスさんは日本人の本音とたて前について、ペルーのフリオさんは演奏も交えケーナと尺八の共通点を、また同じくペルーの半田姉妹は日本とペルーの学校の違いなど一生懸命なスピーチだった。又、スピーチの後、質問コーナーがあり、その時にも、それぞれが、人間性のでた暖かい回答ぶりだった。

その後の交流会では、みんな色々な国の方々と会話を楽しんでいた。鎌ケ谷の外国人の方にとっても、引率した日本人にとっても、よい経験だった。

内モンゴル植林活動を終えて

長沼　達朗（市職員）

昨年の９月８日～16日まで組合活動の一環として中国内蒙古自治区恩格貝（おんかくばい）のグブチ砂漠周辺に砂漠緑化活動に行って来ました。ここは以前、植物は死滅し遊牧民たちのみが暮らす不毛の地でしたが、日本砂漠緑化実践協会を通してたくさんの「緑の協力隊」が1991年以来植林を行っており、今では周辺に緑が形成され始めました。

その様な土地に植林に行ってきたわけですが、日本との違いに初めはとても驚きました。周辺は殆ど何もなく砂漠と草原が広がるのみでした。そこに障子松を植林したのですが、その前段として松の苗が風や砂で飛ばされないために「草方格（そうほうかく）」というわらの囲いを作りました。これが炎天下でとても大変な作業でした。その後にシャベルで穴を掘り「ヤーフン」というヤギの糞で出来た肥料を入れ、障子松の苗を入れて穴を埋めバケツリレーで水をやる作業を繰り返しました。

とても疲れたけど終わったときは、とても清々しい気持ちでした。今私が植えた障子松が砂漠の中で元気に育っているか少々気になりますが、また砂漠に行き大きくなった松の木をこの目で見てみたいと思います。

青年海外協力隊に参加して

長島　寿夫（鎌ケ谷市在住）

青年海外協力隊事業は、発展途上国の発展のために自分の技術や特技を活かして見たいと考えている青年を支援するための事業です。職種は農業のほかに、スポーツ、日本語教師等、多数あります。私は、３ケ月間の派遣前訓練を終え、平成８年12月から、東北タイのウドンタニ育苗センターにて、組織培養由来の苗管理の技術協力に行ってまいりました。

ところで、東北タイは本来亜熱帯雨林が広がっているはずですが、ほとんど森林が見られませんでした。あるのは、畑と荒地です。反面、日本は環境汚染、平成不況と、問題が多いとはいえ、国土は豊かな森林に囲まれ、やはり経済大国であります。このような矛盾は数え切れません。

組織培養苗生産は、農家に商品作物の苗を配布することで、農家の現金収入の向上を主な目的として開始された事業です。タイは米輸出量でも世界トップクラスを誇っていますが、近代的農業技術はいまだ発展途上で、私の活動は農作業の移転から政策まで幅広いものとなり、非常にやりがいがありました。時には、同僚のタイ人と衝突することもありましたが、私を仲間の一人として迎え入れてくれた彼らの笑顔は忘れられないことでしょう。

すみだ国際交流ネットワーク会議'99

（'99 11月23日、隅田区役所に於いて）

第１部フォーラム「安心が見える国際まちづくり」では、地元の消防署長、ペキン出身の中国人（区民）、地元の開業医をパネラーに迎えて、日本人も外国人も安心して暮らせるまちづくりについて、話し合われた。

阪神大震災の折、外国人が避難所に避難できず、救援物資も受けられなかったことや、オーバーステイであるために身元が割れることを恐れ、救急車も呼べない外国人の悲鳴にも近い声に対して、ひらの亀戸ひまわり診療所の平野医師の存在はひとつの救いであった。

ひと月に40～50人のオーバーステイの外国人患者を診る平野医師は、医療保険が適用されない外国人の過酷な現状を切々と語り、聞いている者にとっては、救いというより、やりきれなささえ感じさせるものだった。

彼の存在が外国人に与える安心感は私たちが想像する以上のものであることは、「遠くは山梨や長野からも診察を受けに来る」という彼の言葉からもうかがい知れる。

まだまだ個人単位の助け合いかもしれないが、墨田区長も参加してのこの会が今後、本当の意味での国際交流につながることは、参加者全体に伝わったに違いない。

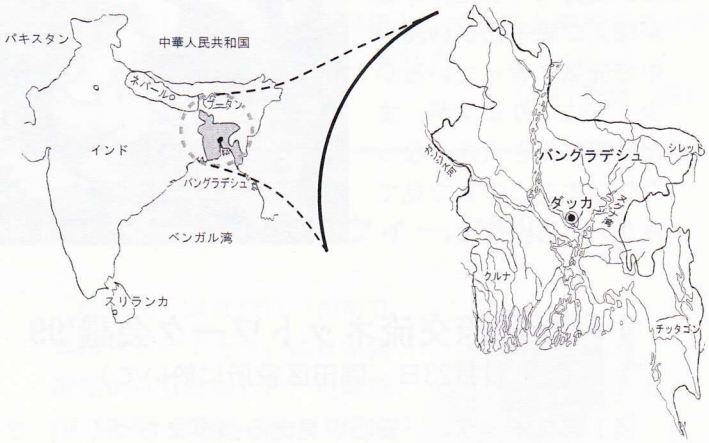
身近にあった！ＮＧＯ活動

鎌ケ谷市役所１階の千葉銀行コーナーの窓口に「世界の飢えを救う貯金箱」と書かれた小さな缶が置かれています。誰が置いたのでしょうか。それは市の職員の大根田忠雄さんでした。

「市役所内の４か所に設置し、市民や職員の皆様に協力して頂いています。年間１～２万円になり、日本国際飢餓対策機構全体では６万円程ですが、開発途上国の努力を支援するのに活用します。」

(M.D.トトル)

I came from Bangladesh. It is small but, very beautiful country. Bangladesh was once known as East Pakistan but, it gained its independence in 1971. Dhaka is the capital of Bangladesh. It's my hometown. I love my hometown. Bangladesh is a south Asian country, which is surrounded by land on the west and The Bay of Bengal on the south. The area is about 144,000km² and the population is 114 million, the 8th largest in the world. Our land is soft and fertile, so our farmers can easily dig plough and prepare the soil with their simple handmade tools. Ours is tropical country. As a result, our soil gets enough sun, air and water, which makes it grow better crops. Our farmers can easily grow lots of jute, rice, sugar cane, tobacco, oilseeds, vegetables and many other crops. In the eastern and south eastern regions, Sylhet and Chittagong, there are a few hilly tracts, which produce tea and jute. Bangladesh is a land of natural beauty, contributed by numerous trees of different sizes. They not only add beauty and charm but also serve as a great source of wealth to our country. Bangladesh is a land of rivers. Few sights on the earth can compare in variety and beauty with the river sights. At different times of the day it presents different scenes. Every season brings in its own wealth of flowers and tea gardens. Hills also deserve mention. But floods visit our country almost every year. There are many attractive and charming places in Bangladesh. Cox, Kaptae, Sunderbans, the Zoo at Mirpur, Botanical gardens (Beside the zoo at Mirpur) and many other places attract the tourists. There are many historical interesting places like Pahalpul, Mahasthahar, Mynamati, Sonargon and so on. Dhaka is an ancient city. It is even older than Culcutta. Dhaka has 1,464km² and about 10 million people inhabit the city. The parliament and an international airport are in the eastern part of Dhaka, and many foreigners are living there. If you visit Bangladesh, you will surely enjoy yourself. Please contact Dhaka Parjatan corporation Bangladesh for infomation on tours. I love my country very much. I always think about Dhaka's progress. I want to become the earth of my DHAKA in my after life. (M.D.Tutul)



私の故郷ダッカ

私は、かつての東パキスタンが1971年に独立してバングラディシュ民主共和国となり、小さいながらも大変美しい国から来ました。バングラディシュは南アジアの熱帯の国で、西を大地に、南をベンガル湾に囲まれて、その面積は約144,000km²、人口は約１億１千４百万人で、世界で８番目です。大地は柔らかで、肥沃なので、農家は自家製の道具で簡単に畑を耕す事が出来、又十分な日光や空気と水の自然の恩恵を受けて良い作物が育ちます。ジュート、米、砂糖きび、煙草、菜種、野菜、等沢山の作物を簡単で豊富に育成が出来ます。東部と南東部のシレットやチッタゴンの丘陵地はジュートやお茶の主生産地です。バングラディシュは様々の大きさの木々が織りなす自然の美景の地であり、又川の国でもありますが、その景観はバラエティに富み、一日中様々な表情の景色が見られます。それは、世界中でも他に類のない程の美しさです。季節は茶畑や花の実りを運んでくれ、そして丘陵地の景観の美しさも又格別です。この美しさは、国に多大な富をもたらす源でもあります。しかし毎年の様に洪水に見舞われるのは残念です。コッタス・バザール・カプタエ・シェンデルバン・ミルプール動物園と隣接のボタニカル植物園、等沢山の観光客を魅了する場所があります。更に、パハルブル・マハスザハール・マイナマティ・ソナルガオン等の歴史的な名所も沢山あります。

私の故郷の首都ダッカは古代都市で、カルカッタよりも古い歴史があります。その面積は1,464km²で、１千万人が住んでいます。ダッカの東部には国会議事堂や国際空港があり、多くの外国人が住んでいます。もしバングラディシュを訪れられたら必ず楽しんで頂ける事でしょう。その節はDhaka Parjatan 社にツアーの問い合わせをして下さい。私は祖国バングラディシュ、そして故郷のダッカが大好きです。死後は私の愛するダッカの土となることを望んでいます。

How International Exchange Influenced My Life
- And it might change your life -

ハイデイ・ラーセン

私の名前はハイデイ・ラーセンです。カリフォルニアのヘイワード出身で、'99年８月からＣＩＲ（国際交流嘱託職員）として鎌ケ谷市役所の企画課で働いています。その前の３年間は市立船橋高校で英語を教えていました。これまで４回日本にきています。

約10年前に船橋の姉妹校からバスケットボールチームが私の高校にやってきました。家にホームステイした学生はあまり英語が話せなかったけど、ジェスチャーでなんとなくコミュニケーションができました。それまで私は、日本について何も知らなく興味がもてませんでした。でもこのホームステイがきっかけで良い思い出ができ、日本の文化に出会いました。

そして、その後、交換留学生として、高校３年の夏休みに１ケ月間日本でホームステイしました。

初めての日本訪問は私の人生に色々な面で影響しました。私を受け入れてくれた日本の両親は自分の子供と同じように私を扱ってくれました。彼らと話ができるようになりたくて、大学で日本語を勉強することに決めました。

このように国際交流の経験は私が大学で専攻した学問や職業にも強く影響しました。10年前の経験のお陰で今、市役所でとてもおもしろい仕事ができるし、日本での生活を楽しんでいます。

国際交流の一番いい点は交換留学の参加者だけでなく参加者の周りにいる家族、友達を含むたくさんの人に影響をあたえたり、受けたりすることだと思います。私の場合は数えられないほど多くの人が影響を受けました。家族は全員日本に来たことがありますし、母は日本語を勉強しはじめました。私の教え子が故郷のヘイワード市に留学したり、日本の友人がアメリカの我が家を訪問したりと、交流がひろがっていきました。そして日本とのこの交流の経験はその他の国や文化への関心につながりました。だから、もしあなたも機会があれば是非、国際交流プログラムに参加してみてください。そうすると、あなたの世界がどんなに広がるか、そして、そのことがあなたの人生を変えることになるかもしれません。

（鎌ケ谷市国際交流嘱託職員）

中央がハイディさん

クリスチャン君がホームスティ

東道野辺在住　高中　秀夫

娘（25才）がワーキングホリデービザで行ったオーストラリアで知り合ったドイツ・デュッセルドルフ出身の青年クリスチャン君が99年３月に約１ケ月我が家に滞在した。娘は、オーストラリアで日本語を教えていた。

彼は、日本語を学び、日本の桜を見、日光・京都を見たいと訪日した。娘はこまめに案内しながら、日本語を教えドイツ語を教わっていた。

彼は、来宅初日畳に正座、たどたどしい日本語で挨拶した。何故外国人が正座できるのか不思議であったが、日本びいきの青年で柔道を３年、空手を２年習っていたそうだ。娘がほんの少し合気道をやるので向かっていったが一発で投げ飛ばされてしまった。

彼は日本人ほど多く食べず、朝はコーヒー１杯トースト１枚でＯＫ、晩飯はあまり食べません。豆腐・すしが大好きで、梅酒は何杯も飲みました。日本人は夜風呂に入るが彼はいつも朝入るようでした。これも習慣の違いでしょうか。こたつが珍しいらしくすっかり気に入っていました。

24才なのに学生なので尋ねるとドイツでは２年間兵役があり、そのうち１年間は、ボランティア活動をする事が定められているとか。いつも笑顔の好青年でした。娘は、今ドイツの彼の家でホームスティしてドイツ語学校へ通っています。梅酒を土産に持っていきました。

高中さん

国際交流に関する
あなたの体験、ご意見を
お寄せください。

投稿規定：25文字×30行以内。題名、住所、年令（学年）を明記の上、事務局（市役所３階）まで。
記載された方には、記念品をお送り致します。

Notice

2000年度総会・開催のお知らせ

日時　5月21日（日）
　　1時30分～（受付1時から）
場所　総合福祉保健センター6F大会議室

多数、ご出席下さい。
総会終了後、懇親会を行います。

KIFA Annual General meeting of year 2000
Date ; May 21st (Sun) from 1:30 pm
Place ; Sogo Fukushi Hoken Center 6F

We hope many of you will attend.
Tea party will be followed after the meeting.

4月より新年度を迎えるにあたり、**ボランティア登録更新の時期**となりましたので、お知らせします。また新規登録して下さる方、部会員・委員会員として活躍して下さる方も募集しています。
お申し込み・お問い合わせはＫＩＦＡ事務局まで。

○通訳ボランティア　○ホームステイ・ホームビジット受入ボランティア
○日本語ボランティア講師　○交流部会　○研修部会　○広報委員会

We did it

盛会に終わった　フィリピンと話そう

12月12日、まなびぃプラザで国別交流会が開かれて鎌ケ谷フィリピンサークルの会員より、フィリピンの文化、言語、人口、観光、そしてギター伴奏による民謡の紹介、手作りの料理など楽しい集いになった。参加者は日本人、外国人あわせて52人。

関心が高まった　インターネット学習会

1月16日、まなびぃプラザで開催した「初歩のインターネット入門」に約60人が参加した。
講師の川北明会員と関さやか会員のスクリーンを使用しての解りやすい解説が好評で、次回は実際にパソコンを使用しての学習会を計画している。

聴衆を魅了した　奥山由美　アジアを歌う

1月23日、福祉保健センターでソプラノ歌手奥山由美さんを招いて「アジアを歌う」コンサートが開催され、参加した約100人の聴衆の心を魅了した。
第一部は昔懐かしい「夜来香」、「蘇州夜曲」など中国民謡、第二部はインドネシアの「ブンガワンソロ」をはじめ、マレーシア、モンゴル、ブリヤート、ロシアの歌の数々をそれぞれの国での自身の音楽体験談を織り交ぜながら、コンサートを楽しませてくれた。奥山さんは以前フランスに留学して初めて「日本人としての誇り」を感じ、アジアの歌の研究を始め、今後もアジアの歌の「発掘者」として音楽活動をして、国際貢献していきたいとの抱負を語ったのが印象的であった。

日本のクラシック音楽界は西欧音楽が主流であるなかで、同じアジア人としていままで埋もれていたアジアの音楽を新しく開拓していく努力は今後多いに期待されると思う。

第２回日本語ボランティア講師研修会

12月19日、高柳和子、金美花両講師を迎えて韓国語による韓国語のレッスンを受けた。これは日本語を習う人の立場になって外国語を学ぶ大変さを体験することで、指導を見なおそうという試みだった。
1から12までの数と時間の尋ね方と答え方というごく簡単な会話にもかかわらず、思うように発音できない異言語の音と自分の物覚えの悪さに悪戦苦闘、ハラハラドキドキの1時間はボランティア講師とはいえ、教えることの難しさと習う側の大変さをあらためて痛感させられた。

各国の料理を賞味した料理教室

1月30日、南部公民館にてＫＩＦＡ恒例の料理教室が、40人の会員が参加して開催された。ロシア料理は高中秀夫氏、ニュージーランド料理はHeidiさん、台湾料理は石井淑玲さん、日本料理は堀優子さんの指導のもとに参加者が熱心に取り組んだ。美味な料理ができてパーティに移り、各国の料理を賞味した後、吉川重清会員のテノール独唱と最後は全員合唱で楽しい交流パーティになった。

編　集　後　記

1999年度の最終号を発刊でき安堵しています。広報委員は記者、編集者、部会活動と一人三役で忙しい一年間でした。早く後継者がバトンタッチしてくれるのを切望しています。